

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月29日

【評価実施概要】

事業所番号	270201064
法人名	社会福祉法人伸康会
事業所名	グループホームふれあい
所在地 (電話番号)	〒036-8381 青森県弘前市独狐字石田172-1 (電話) 0172-95-3000

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階
訪問調査日	平成21年8月28日
評価確定日	平成21年9月29日

【情報提供票より】(平成 21年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 8月 1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	24 人
利用定員数計	27 人
常勤	24人, 非常勤 人, 常勤換算 20.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,600 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,380 円			

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名
要介護1	1 名	要介護2	12 名		
要介護3	9 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低	60 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三上内科医院、松野歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

津軽の名峰岩木山のふもとの広大なリング畑に囲まれた環境にある。母体である老人保健施設に隣接し、3ユニットの比較的大きなホームである。元々有料ホームであった建物のハード面を改修しグループホームに形態を変えたが、家庭的な環境を作り上げようと努力されている。外観は施設感が漂うが、内観はユニットごとに生活単位が区切られた形態であり、各ユニットが独自性を保っていた。また、職員が寄り添えるような配置にもなっており、利用者個々の柔軟な対応が可能である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームとして取り組むべき改善点を話し合われ、ソフト面・ハード面など多角的に考察され、サービス向上に向け取り組まれている。地域性や老健の知名度により思うように地域へのアプローチができていないが、今後も積極的に改善する姿勢にある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を踏まえ、利用者へより良いサービスが提供できるように改善点を吟味し、具体的に何をすればよいか細かい修正が行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は滞ることなく、きちんと開催されてる。公的機関・地域住民へアプローチできる機会としてホームの様子や日常の些細なことまで報告・検討されている。一方的な報告だけでなく、地域からの情報収集も会議の場で行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	ホームとしての立場はもちろん、スタッフとの関係は良好である。普段、家族の面会時など気軽に利用者の状況報告や相談ができるように接している。些細なことでも家族からの要望に関してはサービスへ反映できるように、職員間の連携や取り組みがスムーズに行われている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接する老健とも協力し、地域性を踏まえたホームとしてのあり方は現在も検討中である。緊急時だけではなくホームとしての役割や存在を日ごろから認知されるように行事やイベントには継続的に参加し、できることから取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体施設の理念を基にホーム独自の理念を作り、地域や家族との係わりを大切に、寄り添える個別ケアを実践できるよう取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者自ら率先し、理念の実現に取り組む姿勢が伺える。日頃のケア一つひとつにも気配りが感じられ、職員も管理者の思いを受け止めるように利用者主体のケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内や市役所との関係は適宜図られており、地域における行事・催し物には積極的に参加している。ただ、立地条件により近隣の保育園、小学校まではいささか距離があり、農村部ということと母体の老健のイメージが強く、近隣の方が気軽に立ち寄ることが難しい。		ホームから積極的なアプローチにより地域や関係機関と関わることで少しでも認知症に対する理解や地域で暮らす方へのサポートが出来る取り組みを今後期待したい。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で得られた点は今後サービス向上の機会と捉え、職員が積極的に取り組んでいる。法人も含めハード面に限らずソフト面からも改善が図られるよう前向きに取り組まれている。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	適時実施されている。グループホームの役割やこれからの取り組みの他、地域の方からも積極的な意見もあり、サービスに活かされていた。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のみならず市町村と適宜相談や問い合わせなどサービス向上に向けた良好な関係にあり、課題解決に向けた積極的な取り組みをしている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用されている利用者はいないが、利用者が必要とする場合、なぜ活用されるのか、職員が折りに触れ話し合う機会などがある。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義や防止の意味を内部研修においても確認している。実際の支援においても声がけなど、尊厳をもった対応をされている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>最低限入居時に必要な過程であり、重要事項説明や運営規定など、きちんと説明され、同意が得られている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームからのお便りや、個別の電話連絡だけでなく、面会の際には気軽に声を掛け、利用者の状況や金銭の出納も含めきちんと報告されている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時などで得られた情報や要望は、職員間で情報共有できる体制を整えている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>母体の法人との関係で随時異動が行なわれている。異動がある場合は、利用者にも事前に知らせ、ダメージの軽減に配慮した取り組みがある。また、隣接の老健からの職員異動の際には事前に行き来するなどしている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内の職員研修や外部研修は適時行なわれ、それに伴った業務上の配慮もされている。研修した内容も復命されている。</p>		<p>法人においても研修参加にはきちんとした考えはあるが、研修した内容を反映できる体制が弱い為、具体的に計画実施できるように、今後の取り組みに期待したい。</p>
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の他グループホームだけではなく、ほか事業所(知人)とも情報交換や課題解決に向けた協力体制がある。グループホーム協会への加盟もされ、サービス向上に取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居時の不安やストレスを出来るだけ早期に取り除けるよう家族と協力し、解決していく体制を取っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>業務優先にならないよう、理念の考えのもと、出来るだけ個別に安心した生活援助が出来るよう利用者との信頼関係構築に積極的に取り組んでいる。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本位の視点で、個別に課題解決されている。日常の職員間の連絡も連絡ノートなどを活用し綿密であり、本人の意向を汲み取り易い体制が整っている。</p>		<p>もう少し本人の意向が汲み取れる具体的方法や、誰が見ても解釈できる表現方法にする事で、普段のケアに反映できると考えるので今後に期待したい。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>定期的にユニットごとでカンファレンスが開催され、本人や家族からの意向も踏まえ、計画はされているが、課題の抽出がその時の現況解決的計画になっている。</p>		<p>計画作成時にきちんとアセスメントすることで、チームとして計画に沿ったケアが実行できると考える。今後に期待したい。</p>
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>各ユニットリーダーを中心に、個別に起こる変化や課題に柔軟に対応されている。必要であれば、即実施できるような体制である。</p>		<p>具体的に計画書の作成方法を工夫することでより質の高い援助が出来るかと考える為、今後検討していただきたい。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームの独自性と柔軟性があり、利用者の要望に応えられるような体制づくりをしている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医の受診の継続と、状況が変化すれば直ぐに協力病院との連携も確立しており、利用者・家族にも配慮し安心した援助がされている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>過去にも希望により、家族や主治医と協力して看取りを実施した経緯はある。現在要望や対象者はいないが、今後そのような状況になれば、経験を活かし、取り組む姿勢はある。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライベート・セミプライベート・パブリックスペースと程よい距離感もあり、プライバシーの確保はされており、また必要最低限のルールは現場の職員間でも配慮されている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本理念のもと、安心して暮せるように個別に寄り添い、個々の存在を認め、役割が果たせるように工夫している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一緒に作る方は限られるが、一緒に献立を考えたり、時には下ごしらえや片付けも利用者に合わせ支援されている。また、同じ食事を職員も同じ場所で一緒に食べている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>本人のADL(日常生活動作)のレベルや好みに配慮し、支援されている。既存のハード面の弱点をホーム独自に工夫し、利用者に合わせた支援をされている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々に出来ることを側面から支援できるように、配慮されている。無理強いせず、軽作業や家事など部分的にでも行なえるように支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>通院や買い物と目的をもった外出に限らず、少しの散歩程度でも対応できるように柔軟に支援されている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者自ら身体拘束が及ぼす弊害について職員と共に考え、取り組んでいる。具体的には、同意書に関しても「同意があれば拘束が可能」との解釈に導かれないう、同意書自体が職員の間には触れていない。その為拘束自体がホームにおいて起こりえない環境にしている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームとして隣接される建物で、生活上関係のない場所は危険防止のため施錠されているが、ホーム自体の出入りは自由である。危険防止の支援や外出時の適宜支援で鍵はかけられていない。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体の老健と共同で定期災害訓練が実施されている。ハード面ではスプリンクラーが設置済みである。災害時緊急連絡網の整備もされ災害意識は高い。また、実践に近い対応が取れるよう訓練も計画中である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的に観察・支援されているため、日々の変化に気づき易く、また、記録し客観的に把握できている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがあり、起こりえる時期や原因を理解している。ホームの中に持ち込まない対応と、予防に配慮している。時期的に新型インフルエンザに対しても、対応のため、物品の確保はされている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ユニットごとで、家庭的雰囲気を出すために、利用者や職員が工夫している。出来るだけ幼稚にならず心地よく安全な空間になるように配慮されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の個室は家族と相談し、居心地のよい部屋になるように、利用者や家族と協力し設けている。基本的に持ち込みは自由である。個室としてのスペースは十分確保されている。</p>		

 は、重点項目。